

# 市民を見守る まなざしの輪

結成1年目を迎える久喜市のランニングパトロール隊は、名乗りを上げた市民ランナーのボランティアが、日々のランニングをこなしながら市内を見守る活動を行う。

久喜市役所と、参加しているメンバーの皆さんに、

活動に参加したきっかけや今後の取り組みなどについて聞いた。

## 揃いのポロシャツで走る 見守り役の市民ランナー

鮮やかなオレンジ色のポロシャツが、久喜市内を走る。もしも背中に欧文で、RUNNING PATROL KUKIと入っていたら、それは市民ボランティアのランニングパトロール隊(以下、ランパト)だ。

ランパトの発足は昨年1月、梅田久喜市長の発案による。久喜市では市民ランナーのまちづくりを推進しており、久喜マラソンを開催するなどスポーツを通して、市民の健康づくりに寄与してきた。ランパトは市内でランニング

を楽しむ人に、それぞれ走るコース内の児童・生徒の見守りや、公共施設の故障の通報などの活動を行ってもらおうというもの。現在の登録者数は93人を数え、年齢層も10代から70代と幅広い。

発足後の3月に、披露も兼ねて揃いのポロシャツで久喜マラソンの事前清掃や、当日集団で参加するはずだった。あいにく発足直後に新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)が広まり、大会は中止に。1年が経過した現在もコロナの収束には時間がかかりそうだが、ランニングは基本的に個人が屋外で行うため、ランパトの活動そのものは現在も続く。



オレンジのポロシャツの背中と、左胸にロゴが入っている

### ランニングパトロール隊の皆さん



白岡夜人走遊会  
野間悦男さん



市民ランナーの  
聖地化プロジェクト



市民ランナーの  
聖地化プロジェクト



市民ランナーの  
聖地化プロジェクト



### ランニングパトロール隊

随時募集中。要項の詳細は、「久喜市 ランニングパトロール」で検索を。

問い合わせ／久喜市役所市民部市民生活課  
市民生活防犯係

TEL. 0480-22-1111



で『フリモAR』を検索

\*AppleおよびAppleロゴは米国その他で登録されたApple Inc.の商標です。App Store®はApple Inc.のサービスマークです。Google PlayおよびGoogle Play ロゴはGoogle Inc.の商標です

文／小林美佐子 写真／白石達也 デザイン／廣田義乃

ランパトの事務局を務める久喜市の市民生活防犯係は、「ランニングやジョギングはある程度の長い距離を移動するため、比較的広範囲の見守り活動が行えると思われます」と、メンバーの活動に期待を寄せる。

ランニングチーム白岡夜人走遊会に所属する野間悦男さんは、「久喜市の広報での募集を見て、即座に応募しました」と話す。以前はスポーツ指導員をしており、マラソン歴38年のベテランランナーだ。現在はボランティアとして、障がいのある人がマラソン大会に参加する際の伴走もしている。久喜マラソンも伴走者として何度も参加した。

野間さんは個人的に、1キロメートル走る度に10円ずつの貯金をしている。1年で3から4万円になり、年末にはこれを障がい者施

### 事故や犯罪を抑止し まちの人と交流を生む

設、児童養護施設に寄付しているそうだ。貯金を始めてから累積の走行距離数は、約9万7千キロメートル。もう少しで10万キロメートル、つまり百万円に届く。「いまはその達成を目指しています」と、笑顔を見せる。

ランニングチーム白岡夜人走遊会に所属する野間悦男さんは、「久喜市の広報での募集を見て、即

座に応募しました」と話す。以前はスポーツ指導員をしており、マラソン歴38年のベテランランナーだ。現在はボランティアとして、障がいのある人がマラソン大会に参加する際の伴走もしている。久喜マラソンも伴走者として何度も参

加した。

野間さんは個人的に、1キロメートル走る度に10円ずつの貯金を

している。1年で3から4万円になり、年末にはこれを障がい者施

設、児童養護施設に寄付しているそうだ。貯金を始めてから累積の走行距離数は、約9万7千キロメートル。もう少しで10万キロメートル、つまり百万円に届く。「いまはその達成を目指しています」と、笑顔を見せる。

ランニングチーム白岡夜人走遊会に所属する野間悦男さんは、「久喜市の広報での募集を見て、即

座に応募しました」と話す。以前はスポーツ指導員をしており、マラソン歴38年のベテランランナーだ。現在はボランティアとして、障

がいのある人がマラソン大会に参

加する際の伴走もしている。久喜マラソンも伴走者として何度も参

加した。

野間さんは個人的に、1キロメー

トル走る度に10円ずつの貯金を

している。1年で3から4万円に

なり、年末にはこれを障がい者施

もあります」と話すのは、同チー

ムの渉外を務める砂川隆秀さん。

砂川さん自身は日常走る時もラ

ンパトの意識を持ち、安全走行やそれ違う人への挨拶をするといい、「多くの市民ランナーの皆さ

なも、同じ意識ではないでしょうか」と、ほほ笑む。これまで迷子のか」と、ほほ笑む。これまで迷子の

人を案内したり、酔つて道に倒れた人の救助を手伝つたりした。その時、ランパトのオレンジのポロシャツは、安心感を持つてもらえると実感したそうだ。

印象深いのは、ランパトの発足

式終了後、グループで久喜駅付近

を走っていた時。エレベーターで

高齢者が転倒し、ちょうど下を通ったメンバーが、駆け上がり助けて、出来事だけに、今も鮮明に記憶しているという。

ランパトは地域の見守りを行なうが、それ以上の行動はしない。



ランニングチームの練習の前に、市内を軽くパトロールする、ランニングパトロール隊の皆さん